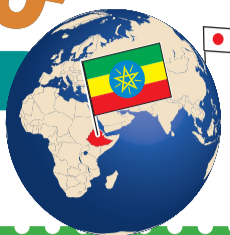


地球ひろば

ともに つくる ぼくらの未来

協力：JICA（ジャイカ）
https://www.jica.go.jp/hiroba/

エチオピア②



- 国名 エチオピア連邦民主共和国
- 面積 109.7万平方キロメートル（日本の約3倍）
- 人口 約9939万人（2015年世界銀行調べ）
- 民族 オロモ族、アムハラ族、ティグライ族など約80
- 言語 アムハラ語、英語
- 宗教 キリスト教、イスラム教ほか
- 時差 6時間（日本が進んでいる）
- エチオピア援助重点課題 ①農業・農村開発②民間セクター開発③インフラ開発④教育

生かして守る

森林コーヒー

森永さんの仕事は？

エチオピアのオロミア州森林野生生物公社で、ベレテ・ゲラ森林保護区の森を守り持続的に管理していけるように協力しています。森に自然に生えているコーヒー（森林コーヒー）を使って、住む人たちの生活を助け、森の木を切りすぎず森がずっと残っていくよう、お手伝いをしています。

生活のために必要な森

世界には森に頼って生活している人がたくさんいます。しかし今、世界の森はどんどん減っています。

エチオピアの田舎では、ご飯を作るために森の木を燃料にするなど森に頼った生活をしている一方で、時には収入を得るために森を切り開いて畑をすることもあります。もしこのまま森が減っていくと、森に頼って生きている人々の生活は成り立たなくなってしまう。

森の恵みを生かした森林保全

世界中で飲まれているコーヒーのアラビカ種は元々エチオピアが発祥で、昔からこの地域の人たちは森に自生する「森林コーヒー」を採集して飲んできました。コーヒーの木は、大きな木の陰を好むため、森がない

森林保全のJICA専門家 森永太一さん



「森林コーヒー」の木を前に話す森永太一さん（左）。緑色の実が赤くなると、種がコーヒー豆になります。

自然の中で遊ぶことが大好きでレンジャー（自然保護官）に憧れ、これまでにブルガリアにある世界自然遺産のスレバルナ自然保護区や北海道の釧路湿原野生生物保護センター、利尻礼文サロベツ国立公園のサロベツ湿原センターで、希少野生生物の研究・保護、自然環境と地域住民の共存のために活動。エチオピアの森林保全プロジェクトには今年3月から携わっています。



①森林コーヒーを売りに来た住民②首都の加工場で輸出に備えコーヒーの数量を確認する職員③コーヒーの品質を上げるためにUCC上島珈琲の専門家と年1回品評会をします

と育ちません。森林コーヒーは、まさにエチオピアの森の恵みなのです。

私たちは地域の人たちと一緒に、森林コーヒーを用いて森を守る支援をしています。具体的には、UCC上島珈琲と協力して森林コーヒーの品質を良くし、日本に輸出する仕組みをつくってきました。

その結果、地域の人たちは森を守ることで

持続的な森林コーヒーの採集・輸出ができるようになり、これまでよりも収入が増えています。また、日本では新しい風味のコーヒーを飲むことができるようになりました。

このようにして、私たちは森を守りながら継続して活用できる仕組みづくりを支援しています。

はじめよう SDGs

調べてみよう 考えてみよう



Q1 私たちの日々の暮らしの中で、森や木に支えられていることって、どんなことがあるだろう？ 家の中、学校、近所の公園や自然にそれぞれ目を向けて、調べてみよう。

Q2 もし、森や木が無くなってしまったら？ 森林、木々を守るため、私たちはどうしたら良いだろう？ 考えてみよう。

SDG 15では、陸上でさまざまな種類の生き物が

15 陸の豊かさを守ろう



自然のバランスを保つ

暮らしをいけるように、森を守り、砂漠化を防ぐなどすることを目指しています。生き物は互いに関わり合っている。いながらバランスよく成り立っています。違法に木を切り倒すことや野生生物の密猟などは、生き物が住んでいるバランスを崩すので、避けねばなりません。例えば、森林には、たくさん人の働きがあります。地球温暖化の原因となっている二酸化炭素を吸収し、酸素を出し、急激な気温の変化を和らげてくれます。私たちに多くの恵みをもたらす森林を守るためにどんなことができるでしょう。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

世界を変えるための17の目標

